

横軸について（案）

1 地域における暮らしの場の維持

長い年月をかけて培われてきた地域固有の歴史や文化、生活環境は、そこに暮らす人の誇りや愛着を育むものであり、それぞれの地域をかけがえのない存在としている重要な要素です。

しかし、そうした地域の特色や魅力を守っていくためには、そこに人が暮らし続けなければなりません。

過去数10年間の積み重ねの結果である現在の人口減少の流れを直ちに止めることは不可能です。しかし、暮らしの場を守り、地域を維持できてこそ、先人から脈々と受け継がれてきた総体としてのこのまちの魅力を保全することができます。

地域の個性を大切にし、世界の均質化に抗い、三条市が三条市である理由を意識して守っていくことがこのまちの持続可能性を高めます。

それぞれの地域で人口減少（図表1、2）や高齢化が急速に進む厳しい状況は続いています。将来にわたって「選びたくなるまち三条」であるため、各地域の暮らしの場を守り、その個性を生かしたまちづくりを進めていきます。

2 転出の抑制、転入の促進

当市の人口動態は、新潟県全体と比較すると健闘しているものの、若年層の進学等に伴う流出と就職等に伴う復元力の弱さは、課題であり続けています（図表3）。

この課題の解決には、収入を得る「働く場」、安らぎと安定感を得る「生活の場」のそれぞれの魅力を高めていくほかありません。

三条市は、新潟市と長岡市に挟まれた地域でありながら、県内経済圏の一極を担い、高い雇用吸収力を有しています（図表4）。この「働く場」としての魅力は、時代の変化に的確に対応しながら今後も維持していくことが求められます。

一方で、住宅の購入や結婚などを契機に、三条市から県内の他市町村に移り住む人も少なくありません（図表5）。「働く場」としての魅力を維持、向上させつつ、「生活の場」としての魅力を地道に高めていくことが必要です。

そしてこれらの取組は、結果的に県内他市町村への転出超過のみならず、首都圏に対する転出超過の抑制にもつながります。

三条市の人口動態の課題の解決に向け、引き続き、当地域の特徴を踏まえた転出の抑制及び転入の促進に取り組んでいきます。

3 多様性の尊重

国連の調査によると我が国は、健康寿命や1人当たりのGDPといった客観的な幸福度は比較的高いものの、主観的な幸福度は低いとされています(図表6)。

客観的な指標は高水準にもかかわらず、豊かさを実感できない現在の状況は、社会に漂う閉塞感と無関係ではありません。

高度経済成長期において、我が国は、中央集権型の社会システムや自己責任を前提とした競争の下、画一化、効率化を追求してきました。そしてそれらの価値観は、経済的な繁栄を生み、客観的な幸福度の上昇を支えてきました。

しかし、主観的な幸福度の向上には、生き方や働き方の選択肢を増やし、自己決定できるようにするなど、人生における選択の自由度を高め、個が活かされる環境を整えていくことが重要とされます。

そのためには、これまでの社会が必ずしも重視してこなかった多様性の尊重、寛容、他者への配慮といった価値観を大切にすることが必要です。

さらに、主観的な幸福度を向上させるためには、経済成長よりも環境保全やゆとりのある生活といった生活の質を大切にするという価値観も尊重していくことが求められます。

異なる価値観を許容しない閉鎖的、抑圧的な社会に陥ることなく、互いに認め合い、支え合いながら、誰もが安心して暮らしていくことのできる豊かな地域社会の形成に取り組んでいきます。

4 新たな技術の活用

技術の進歩は、これまでの歴史において、人々の生活や働き方、産業構造などに大きな影響を及ぼしてきました。

近年においても急速に発達するデジタル技術を始め、様々な技術が目覚ましく進歩しています。それらは、生産性の向上や働き方改革、社会インフラの維持管理、自然災害への対応といった、今日的な課題の解決に大きく寄与することが期待されます。また、単に課題を解決するだけに止まらず、私たちの日々の生活を更に便利で快適なものとしてくれる可能性も秘めています。

既存の制度や仕組みを前提とすることなく、積極的かつ柔軟に新たな技術やツールを活用していくことで社会の課題の解決や利便性の向上を目指していきます。

5 情報発信の強化

このまちには、世界に誇るものづくりの伝統や技術、豊かな自然に育まれた質の高い農作物など、本質を変えずにセンス良く編集することで他の地域と大きく差別化できる素晴らしい資源が数多く存在します。

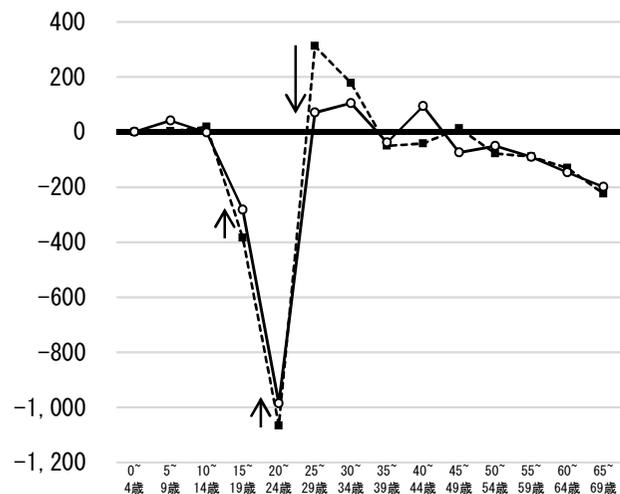
それらを戦略的に全国に発信し、高く評価されることは、市民のこのまちに対する誇りや愛着を育みます。そしてそれは、まちづくりへの自律的、主体的な参画を促すことにつながるとともに、間接的に前述の転出の抑制、転入の促進にも良い影響を与えます。

さらに、昨年度実施した市民アンケートによると、対外的な知名度の向上といった「まちのイメージアップ」の取組に対する満足度は、徐々に向上してきているものの、依然として高い水準になく、大きな伸び代が期待できる分野でもあります。

他方、いかに優れた施策を展開したとしても、それを求める市民に認知されなければ、それぞれの施策は真価を発揮できません。「いいものやいいことは、いつか自然に知ってもらえるはず」という誤った思い込みを捨て、貪欲かつ効果的に各種の取組を発信していくことが必要です。

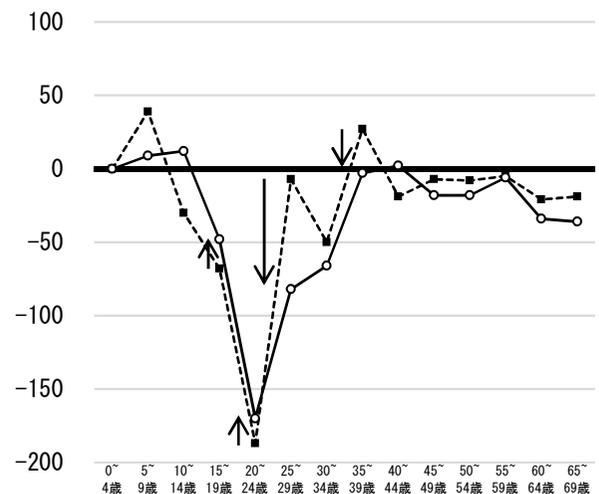
市民のまちに対する誇りや愛着の醸成、三条市のファンの獲得、施策の効果の最大化を図るため、多様な手段による市内外への情報発信の強化に取り組んでいきます。

図表1-1 旧三条地域コーホート図



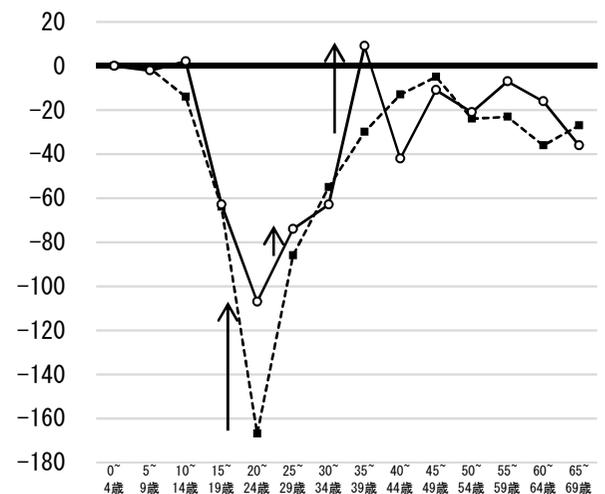
総務省「国勢調査」に基づき作成

図表1-2 旧栄地域コーホート図

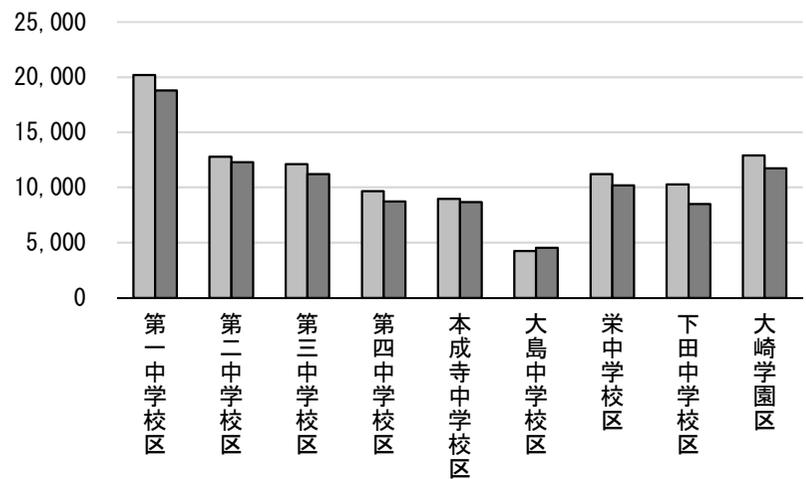


---■--- H17-22 —○— H27-R2

図表1-3 旧下田地域コーホート図



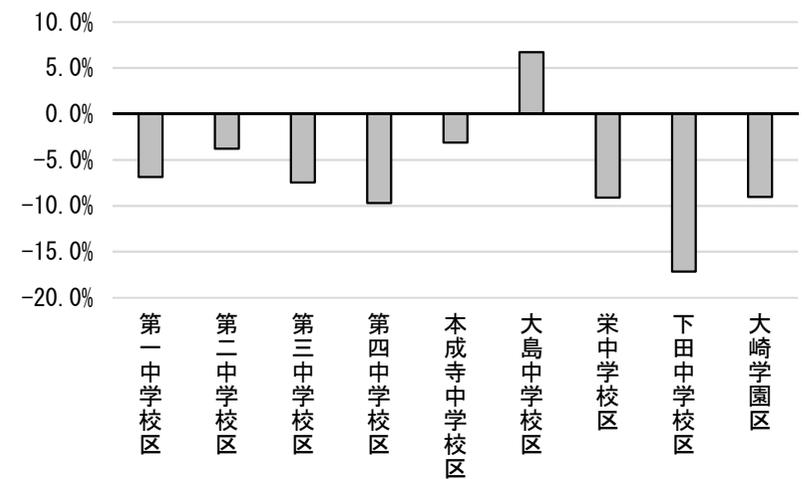
図表2-1 中学校区別人口 (H22・R2)



□H22 □R2

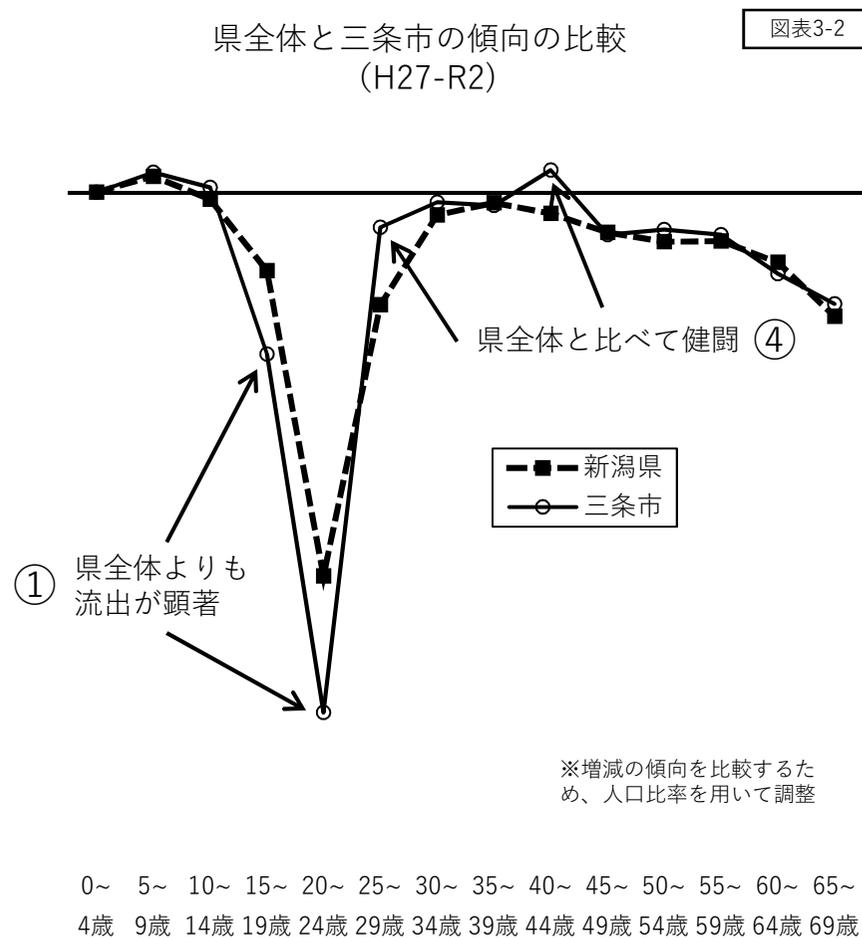
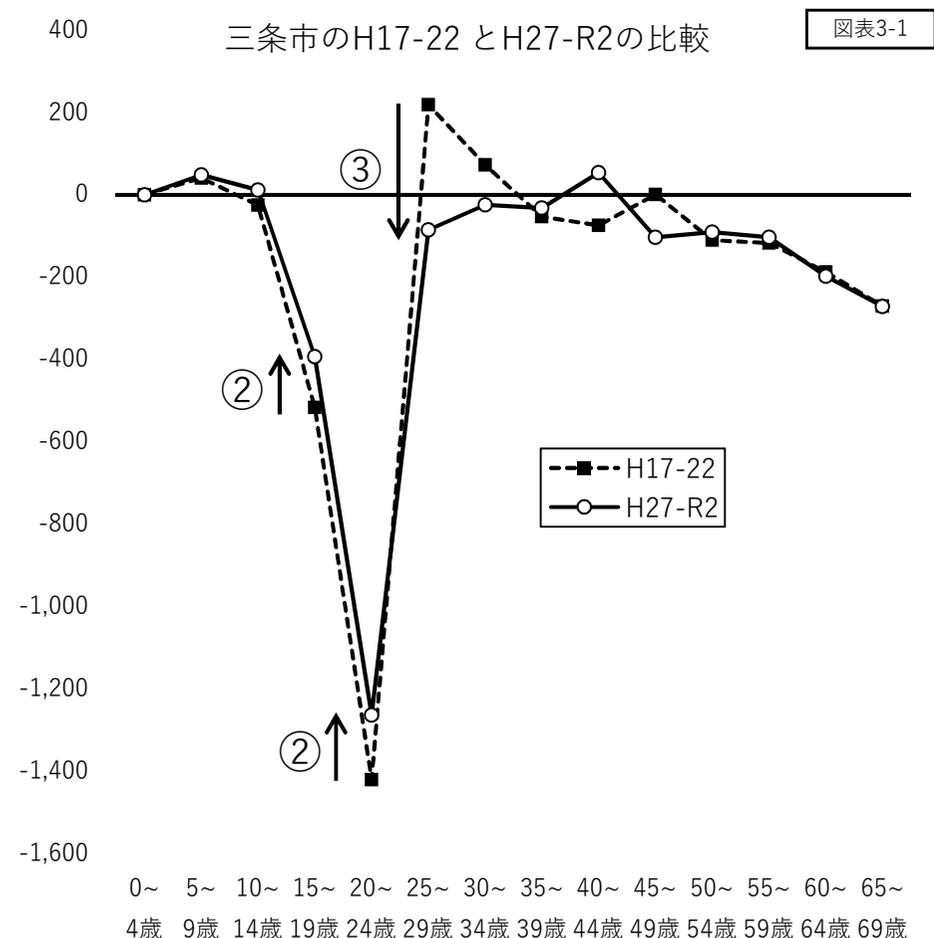
総務省「国勢調査」に基づき作成

図表2-2 中学校区別人口増減率 (H22-R2)



□増減率 (H22-R2)

各世代が5年間でどのように動いたか（転入・転出）を表すグラフ



※増減の傾向を比較するため、人口比率を用いて調整

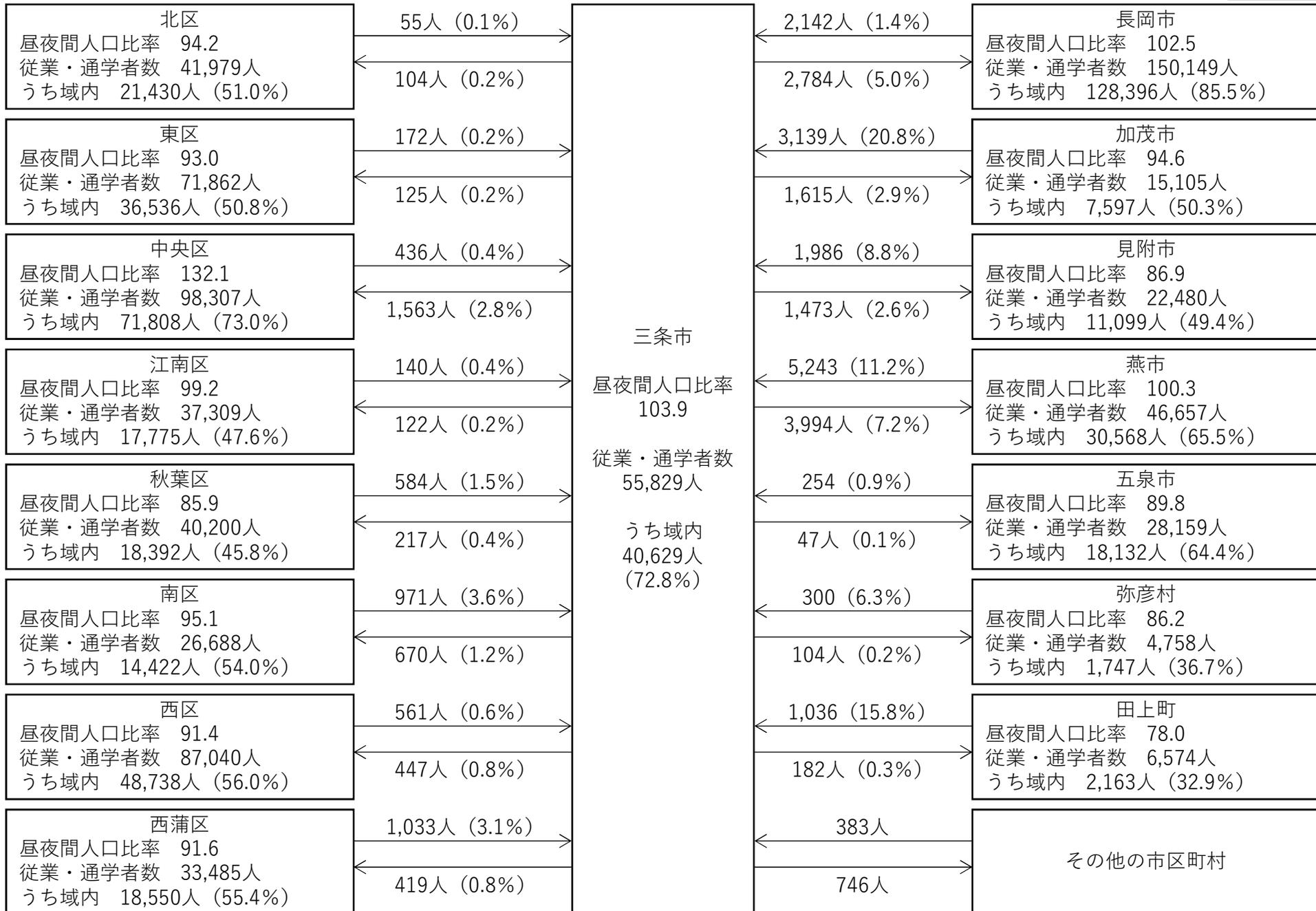
総務省「国勢調査」に基づき作成

- ・若年層の進学等による転出超過の傾向は新潟県全体よりも顕著（図表3-2①）だが、H17年からH22年までの5年間の動きとH27年からR2年までの動きを比較すると転出幅が縮小し、改善傾向（図表3-1②）にある。
- ・同様の比較で、若年層の就職等による人口の復元力は悪化（図表3-1③）したが、県全体と比較すると相対的に転出幅は小さく健闘（図表3-2④）している。

過去の長年の積み重ねの結果である現在の人口減少の流れを直ちに反転させることは不可能だが、県全体の傾向などを考慮すると各般の取組により当市の人口動態は相対的に踏みとどまっているものと評価

通勤、通学による人口移動

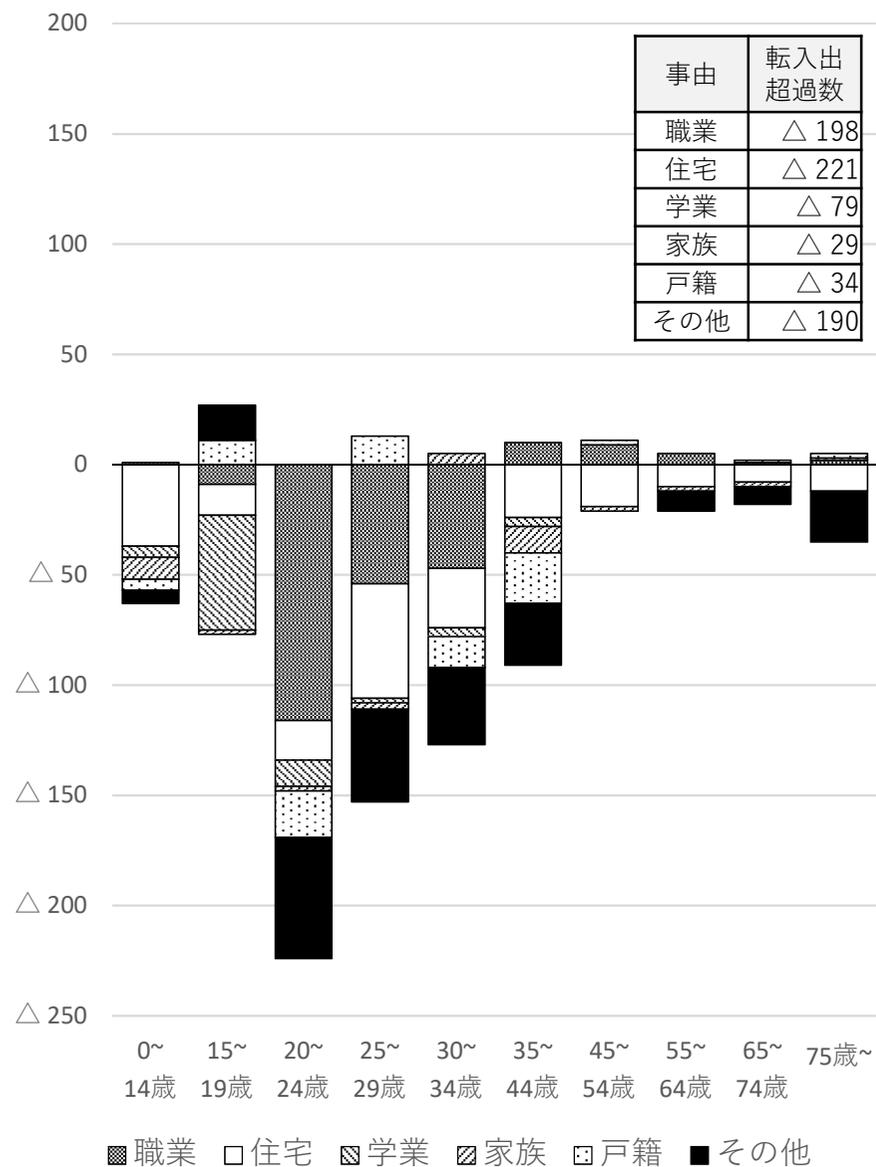
図表4



事由別・年代別県内市町村間転入出超過数（平成29年～令和3年の合計）

三条市

図表5-1



図表5-2

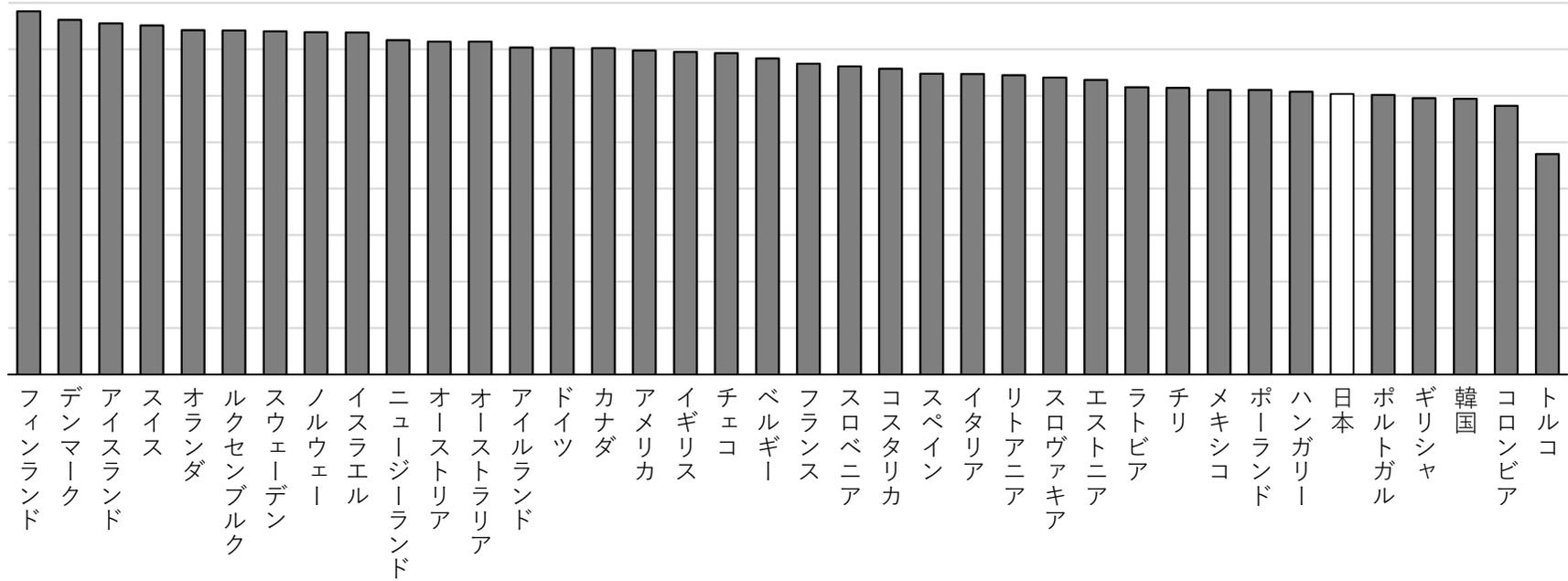
転出超過数上位10転出先・事由

転出先	事由	転出超過数
中央区	職業	153人
燕市	住宅	113人
燕市	その他	78人
燕市	戸籍	61人
西区	住宅	52人
西区	職業	44人
西区	戸籍	37人
南区	その他	36人
中央区	戸籍	35人
長岡市	職業	35人

移動事由	内容
職業	就職、転勤、求職、転職、開業など職業関係による移動
住宅	家屋の新築、公営住宅、借家、下宿へ移転など住宅都合による移動
学業	就学、退学、転校など学業関係による移動
家族	移動の直接の原因になった者に伴って移動する家族の移動
戸籍	結婚、離婚、養子縁組、復縁など縁事による移動
その他	1～5以外の理由による移動

OECD加盟国における幸福度（2019-2021）

図表6-1



各評価項目の順位

図表6-2

項目	順位
幸福度	33位/38か国
健康寿命	1位/38か国
汚職等、社会の腐敗度	17位/38か国
一人当たりGDP	20位/38か国
選択の自由度	26位/38か国
社会的支援	28位/38か国
寛容度	38位/38か国

「World Happiness Report2022」に基づき作成